

ダム事業

平成20年度		再評価						
事業名(箇所名)	天ヶ瀬ダム再開発事業	担当課	河川局治水課		事業主体	近畿地方整備局		
		担当課長名	青山 俊行					
実施箇所	京都府宇治市横島町							
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業							
事業諸元	トンネル式放流設備 内径10.3m 延長614m 計画放流量600m ³ /s							
事業期間	平成元年度建設事業着手							
総事業費(億円)	約430	残事業費(億円)	約361					
目的・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水調節 宇治川、淀川の洪水調節、琵琶湖周辺の洪水防御を行う。 ・水道用水の供給 京都府の新たな水道用水0.60m³/sの取水を可能ならしめる。 ・発電 既設喜撰山発電所、既設天ヶ瀬発電所においてそれぞれ最大出力466,000kw、92,000kwの発電を行う。 							
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数 476戸 年平均浸水軽減面積 18ha ※天ヶ瀬ダム再開発は、大戸川ダムと一体的に運用することで効果を発現するため、総便益、総費用、B/Cは大戸川ダムと天ヶ瀬ダム再開発を合わせたものとしている。							
事業全体の投資効率性	基準年度	平成19年度						
	B:総便益(億円)	2,217	C:総費用(億円)	1,569	B/C	1.4	B-C	648
					EIRR(%)			
事業の効果等	治水面においては、大戸川ダム及び河川改修等とあわせ、宇治川、淀川の洪水被害の防止又は軽減が可能となる。 また、琵琶湖の水位を速やかに低下させることで、琵琶湖沿岸の浸水被害の防止又は軽減が可能となる。 利水面においては、京都府に対して新たな水道用水の供給が可能となる。 また、発電において、既設発電所の増強が可能となる。							
社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年3月、淀川水系河川整備計画を策定 ・天ヶ瀬ダム再開発は、淀川水系河川整備計画において「天ヶ瀬ダム再開発事業による天ヶ瀬ダムの放流能力の増強を行う。」と記載。 							
事業の進捗状況	平成19年度までの事業費 約69億円							
事業の進捗の見込み	工事用道路の整備及びトンネル式放流設備の設計等を進める。							
コスト縮減や代替案立案等の可能性	-							
対応方針	継続							
対応方針理由	天ヶ瀬ダム再開発事業は、平成21年3月に策定された淀川水系河川整備計画において「天ヶ瀬ダム再開発事業による天ヶ瀬ダムの放流能力の増強を行う」と位置付けられたため。							
その他	記載内容については、全て淀川水系河川整備計画に基づくものである。							

淀川天ヶ瀬ダム再開発事業概要図

